

令和8年度グローバル社会文化研究センター 所員個人研究テーマ一覧

No	区分	資格	氏名	研究テーマ	備考
1	センター長 (兼任)	教授	曾根 康雄	中国の経済体制改革過程におけるマクロ経済管理能力の評価	運営委員会委員長
2	副センター長 (兼任)	〃	徳永 志織	言語景観を活用したスペイン語教育：言語と文化の理解へ	運営委員会副委員長
3	所員(兼任)	〃	武廣 亮平	日本古代におけるエミシ身分の成立と展開	運営委員会委員
4	〃	准教授	高草木 邦人	モニュメントの比較史研究：近現代ルーマニアと近現代日本における銅像の認識	〃
5	〃	専任講師	田中 菜採	学習者自身の知覚による黙読・速読中のプロゾディー処理	〃
6	〃	教授	秋山 孝信	動詞+前置詞+ing形における前置詞の意味的選択性について	
7	〃	〃	卜部 勝彦	地図の得手・不得手をふまえた地理教育での系統的地図指導に関する研究	
8	〃	〃	岡本 菜穂子	旧東独地域の多文化社会形成過程と社会統合	
9	〃	〃	奥田 智	公立学校における主権者教育プログラムの実効性の検証 —小学校・中学校・高校における主権者教育の連続性に着目して—	
10	〃	〃	坂野 徹	科学の歴史の総合的研究	
11	〃	〃	田村 真奈美	英国ヴィクトリア朝文学の文化研究	
12	〃	〃	根村 直美	パフォーマンスイビティ理論のポストヒューマン主義の展開 —カレン・バラッドはジュディス・バトラーの理論をどのように再構成したのか—	
13	〃	〃	村岡 哲郎	協調動作と空間性ワーキングメモリの関連	
14	〃	〃	安田 静	各種の上演文化における「芸術化」について	
15	〃	〃	藪越 知子	テクノロジーを活用した自己調整言語学習—英語習熟度との関係	
16	〃	〃	山岸 郁子	大衆文学の研究 1950-70年代を中心として	
17	〃	〃	山森 光陽	小学生用生活科標準学力検査開発のための基礎研究	
18	〃	准教授	位田 将司	日本近代文学における哲学・思想の理論的影響に関する研究	
19	〃	〃	岡島 慶	英語圏黒人思弁小説から英文読解能力育成の可能性を探る	
20	〃	〃	笠貫 葉子	認知言語学的視点からの比喩研究	
21	〃	〃	加藤 嘉津枝	①日本人EFL学習者における中学・高校英語の定着について ②日本人EFL学習者に対する音読指導の方法について—空読みを避けるために— ③日本人EFL大学生の英文多読—その学習効果について	
22	〃	〃	久井田 直之	英語プレゼンテーションと協同学習のエンゲージメントへの影響—国際交流と英語学習の関係性に着目して	
23	〃	〃	越澤 亮	サッカードストラテジーによるボール到達位置予測時における視線活動と脳活動様式—壮年者を対象とした検討—	
24	〃	〃	佐藤 温	幕末社会における文人の諸相についての研究	
25	〃	〃	杉藤 久志	中英語ドリームヴィジョンにおける抒情詩的な流動性	
26	〃	〃	バイアシュミット・ジャレド	グリット、自己調整学習、および英語能力	
27	〃	〃	バターフィールド・ジェフリー	外来語の使用とそれの受容言語や社会に対する影響	
28	〃	〃	ハッチンソン・キャロライン	英語教育の総合的研究	
29	〃	〃	林 直樹	日本語・日本語社会の実態把握	
30	〃	〃	姫嶋 瑞穂	近代日本における行刑制度改革と死刑廃止論の制度的展開に関する実証研究	
31	〃	専任講師	齋藤 美保	人里に出没する「臆病な」キリン：当該個体の特徴と要因の解明	
32	〃	〃	田中 圭	スマート農業の利活用に関する研究	
33	〃	〃	平木 貴子	測定データの即時フィードバックが自己調整学習方略の獲得に与える影響 ② ソーシャル・サポートに注目した検討	
34	〃	〃	福田 敦史	自我と人格(人間)との両立問題の措定とその解明	
35	〃	〃	山口 真紀	研究留学生のための日本語学習教材の開発を目指した学習環境要因の調査と分析—経済・商学系、人文社会系を中心—to	
36	〃	助教	藤本 澄江	1. 動物愛好者コミュニティにおけるファンダム用語の言語学的特徴—バンドファンを中心—to 2. [“这才”+動詞句]と[“所以才”+動詞句]における相互変換可能の再検証	